

～見聞録～ 歴史の町「小江戸・佐原」を訪ねて

有賀 茂（昭和 31 年 ・ 経営学部卒）

「お江戸見たけりゃ佐原えござれ」と唄にまでその繁栄ぶりが讃えられた佐原（千葉県香取市）を 5 月に訪ねて見た。

佐原は江戸時代以降、利根川水運の中継基地として栄え、その財力を背景にまつり文化が発展し、その大動脈だった小野川や香取街道沿いには、江戸時代から昭和初期にかけて造られた土蔵や町屋洋館などが現在も情緒ある佇まいを見せている。

水郷と呼ばれるその美しい街並みは、関東で初めて国の重要伝統的建造物地区に選定されている。そんな佐原の町と切っても切れないのが我が国初の実測日本地図を作った伊能忠敬です。町で「忠敬（ちゅうけい）」と愛称されています。

町の東西を走る香取街道と南北を流れる小野川が交差する「忠敬橋」地域が佐原の中心地で、近くには伊能家の建物や資料館などが点在している。その橋のそばにあるのが伊能忠敬の旧宅で、伊能家の店舗や書院、土蔵などがある。伊能家は米の売買や酒造りを営む商家で、佐原村本宿組の名主を務めた家柄でもある。忠敬橋を小野川沿いに北上すると両岸に土蔵や町屋がならんでおり、老舗の佃煮店や酒蔵、旅館などの風情ある建物の多くにのれんがかけられ、ほとんどの店が現在も営業していることに驚きました。

忠敬は、家業を継ぎながら前半生をこの地で過ごしました。家業の合間に天文暦学の勉強を続け、50 歳で隠居した後江戸に出て本格的に学問を学びます。そして 55 歳から全国測量の旅に出たのです。

第一次測量（1800 年 55 歳）は東北・北海道南部地区、第二次測量は関東・東北東部地区、第三次測量は東北西部など以降最後の第十次測量まで、実に 16 年に及ぶ偉業でした。忠敬 71 歳でした。

忠敬は 73 歳で亡くなりましたが。没後 3 年の 1821 年大日本沿岸地図が完成しました。忠敬の生涯やその偉業は、対岸にある伊能忠敬記念館で詳しく知ることができますが、所蔵されている「伊能忠敬関係資料」2,345 点は 6 月 29 日国宝に指定されている。

このほか、毎年 7 月と 10 月に行われている佐原の大祭は、佐原囃子と共に歴史的町並みの小江戸・佐原を勇壮豪華な山車が練り歩く祭りで、国の指定重要無形文化財に指定されており、一度は観たいと思っている。

（※2015 年 7 月以前の原稿です）

<伊能忠敬記念館>

住所：千葉県香取市佐原イ 1722-1

電話：0478-54-1118

アクセス：

電車→JR 成田線佐原駅より徒歩約 15 分

車→北関東自動車道、佐原香取 IC より約 10 分

<佐原の大祭 秋祭り>

日程：平成 29 年 10 月 13 日（金）

～10 月 15 日（日）の予定